

新基地建設反対名護共同センターニュース

市長選で「オール沖縄」の一致点広がった



亀山氏（写真中央奥）は「市長選を通じて辺野古に続いて浦添でも“基地ノー” “海を守れ”の住民運動が確固として立ち上がった。“オール沖縄”が保留していた軍港問題に向き合い始め、辺野古・オスプレイ・地位協定だけだった一致点を広げる画期的な一歩を踏み出した。基地とのたたかいは必ず長い取り組みになる。辺野古の場合も97年の名護市民投票の結果、県知事が反対を表明した。住民の力で大きな運動をつくって初めて自治体を動かすことができる」と住民運動の重要性を強調しました。

感染症対策をとりゲート前の監視活動

キャンプ・シュワブゲート前では月曜日から金曜日まで分担して監視活動を続けています。

月曜と金曜日は県統一連、火曜日は平和運動センター、水曜日は平和市民連絡会、木曜日はヘリ基地反対協が責任団体です。

連日10数人～20人程の県民が感染症対策をとりつつ、抗議のパネルを掲げ、担当者が基地内に入る工事車両の車種や台数を記録しています。

連日、200台前後の生コン車やダンプカーなど工事用車両が基地内に入り違法工事を続けています。

（写真右は24日、午前9時過ぎのゲート前）



学習会で「西海岸を守ろう」と確信広がる

浦添西海岸の未来を考える会は23日、浦添市内で亀山統一琉球大助教（日本科学者会議沖縄支部）を講師に「浦添西海岸を守る」の学習会を行い120人が参加。講演後多くの意見や感想が交流され、「住民運動で浦添西海岸を守っていこう」と確信が広がりました。

亀山氏は、那覇軍港と浦添新軍港をめぐる歴史的経過を整理して解説し、浦添軍港案は既定の事実にとられず県民は自由にもがける状態にあると報告。また、デニー知事が軍港移設を容認しても、首長の意思が住民の意思になるのではなく、住民の意思が首長の意思を決めるのが憲法の地方自治のあり方だと報告しました。亀山氏はさらに、浦添市長選で伊礼ゆうき候補が敗れたものの現職候補は公約では一度も軍港建設を市民に問うていない。一方、選挙戦で市民やオール沖縄に結集する勢力がこぞって「軍港反対、西海岸を守れ」の公約を掲げた伊礼さんを支持し、応援したことは「オール沖縄」の一致点を大きく広げ、選挙戦を通じて「軍港反対、西海岸を守れ」の確固たる運動が生まれたことは大きな成果だと強調しました。

塩川港でガット船が月一度の赤土搬出

「過剰警備をコロナ対策に回せ」
現場で監視活動をしている本部町島ぐるみの担当者は「ガット船一隻で一日ダンプ150台分ほどしか積み込めません。通常の台船への積み替え作業より効率が悪いです。が、一カ月一度はガット船を使わないと県の許可が取り消されるので今日はガット船を使っています。また、塩川港だけで㈱テイケイの警備員を100人以上配置しています。誰が見ても過剰警備です。この税金をコロナ対策に回すべきだ」と怒っていました。



県民の監視活動参加者3人に対し、警備員を100人以上も配置しています。

やんばるは新緑のシーズン到来

やんばる地方ではイタジイの木に柔らかな若葉が芽吹き始め新緑のシーズンを迎えました。緑の山々に囲まれた集落から見渡す新緑は日増しに輝きを増し、太陽を浴びた若葉が輝いています。葉緑樹林とのコントラストが鮮やかで人々の目を楽しませています。4月ごろまで見頃です。（写真=名護市三原区で24日）

